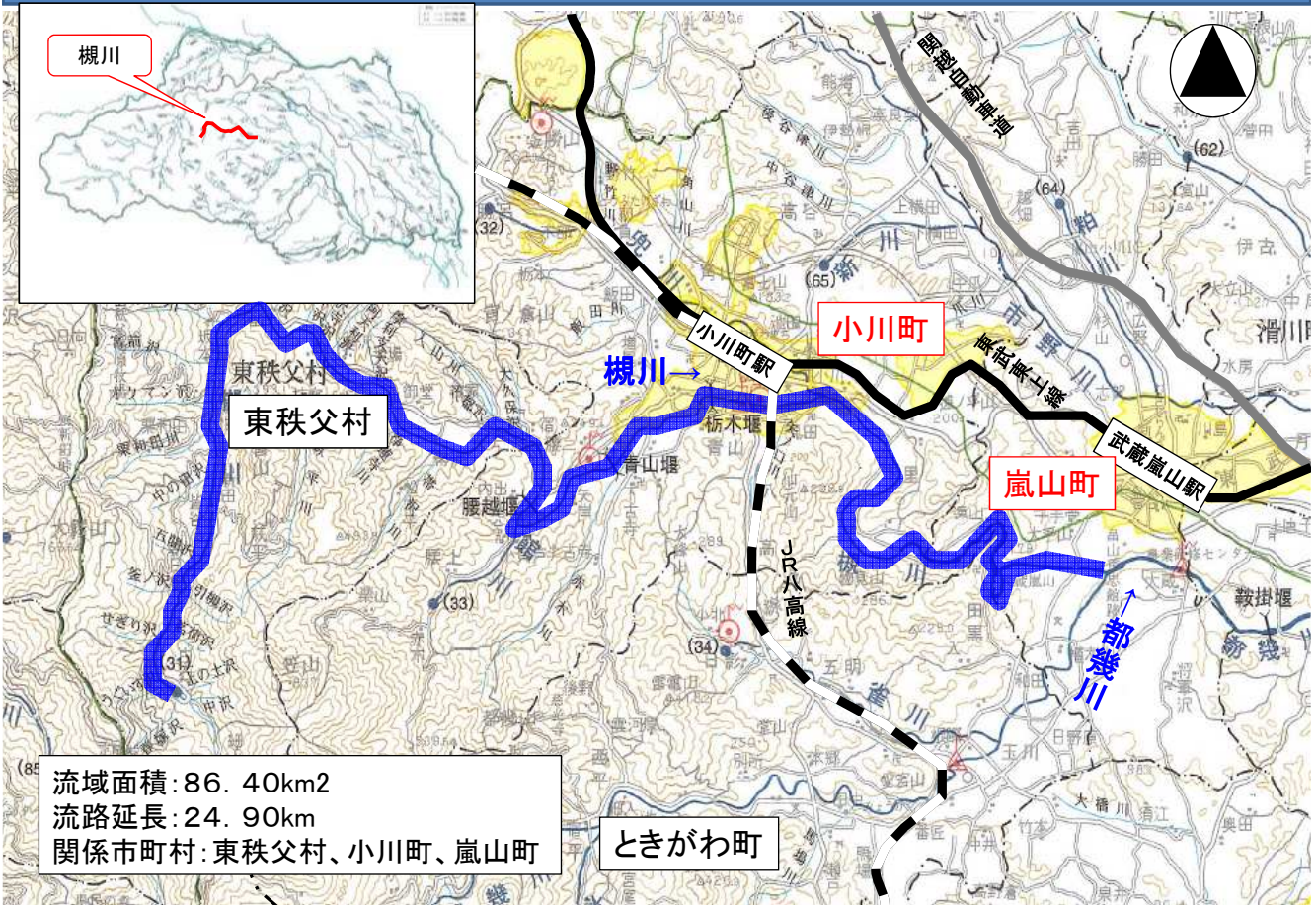


# 槻川の概要



## 川の再生まるごとプロジェクト

様式-2

～「武蔵嵐山」再発見 自然が満喫できるまち～

槻川

嵐山町



嵐山町マスコットキャラクター  
らんまる  
むさし風丸

嵐山町の町名は、槻川の岩畳と清流周辺の木々がおりなす見事な景観が京都の嵐山に似ていることから、我が国最初の林学博士である本多静六博士が昭和3年に命名した「武蔵嵐山」に由来しています。

以前は、武蔵嵐山駅から人が途絶えることなく繋がったといわれる観光地でした。しかし、現在、「武蔵嵐山」や「嵐山渓谷」を堪能できるような散策路が確保されていません。

## 市町村域と川の関係(現状の案内図)



## 川の現状

- 槻川は延長約4.5km (うち改修済み延長 約0.4km)
- 美化活動団体 4団体(嵐山町観光協会、槻川をきれいにする会、埼玉緑のトラスト協会嵐山支部、嵐山幼稚園)(川の応援団の登録なし)
- 川の特徴
  - ・嵐山町の町名由来となった景勝地であり、渓谷周辺樹林地はトラスト地として保全されています。
  - ・嵐山渓谷バーベキュー場は、「るるぶ.com」全国バーベキュー&キャンプ場2012 関東エリア№1にランキングされている人気スポットです。(平成24年6月現在)

## まちづくり等の課題

- 嵐山渓谷バーベキュー場は超人気スポットですが、そこから上流の「嵐山渓谷」へ行くことが難しくなっています。
- 市街化区域は公共下水道が整備されたが、市街化調整区域は合併浄化槽整備が進まず、生活排水が河川に処理されず流入しています。
- 武蔵嵐山駅から嵐山渓谷周辺を散策するルート表示が不十分となっています。

# 「武蔵嵐山」再発見 自然が満喫できるまち

「嵐山渓谷」は春のヤマザクラや晩秋の紅葉も見事で、都心から近くして里山の自然を体感できる貴重な場所です。しかし、現状では駐車場がある嵐山渓谷バーベキュー場から容易に散策することができません。武蔵嵐山駅から、幹線道路から分かりやすく行くルートがありません。

嵐山渓谷バーベキュー場から水辺の散策路を整備することにより、嵐山町の町名のルーツである「武蔵嵐山」と「嵐山渓谷」を再発見することにより、まちの活性化を図ります。

## まちづくりと川の関係(イメージ図)



## 現状と課題への対応

- 嵐山渓谷バーベキュー場から「嵐山渓谷」を散策できる遊歩道の整備を図ります。
- 「武蔵嵐山」、「嵐山渓谷」の環境保全を図ります。
- 駅から嵐山渓谷へ行き、その周辺も散策できる観光看板整備を図ります。
- 川の水質を向上させるため、市街化調整区域の生活排水対策の充実を図ります。

## 目標・テーマ

- 「武蔵嵐山」の再発見
  - ・嵐山町の町名のルーツを多くの方々に堪能してもらえ、環境整備を図り、それを町全体の活性化につなげていきます。
- 水質の早期浄化
  - ・関東初のPFI方式による市町村管理型合併浄化槽整備事業により、市街化調整区域の水質浄化を行います。

「嵐山渓谷」の入り口は、嵐山渓谷パーベキュー場が整備され、都心からも多くの方が訪れています。嵐山渓谷周辺樹林地は自然豊かなトラスト保全3号地があります。嵐山渓谷パーベキュー場から「嵐山渓谷」まで自然をそのまま活かした遊歩道を整備することにより、更なる観光客の増加が見込まれます。嵐山町を周遊するいくつかのルートを紹介することにより、リピーターの確保が図られます。

## 位置図



自然を活かした遊歩道イメージ1



自然を活かした遊歩道イメージ2

## 実施してほしい取組の概要

### ハード

- 豊かな自然がそのまま残っている環境を活かした、嵐山渓谷パーベキュー場からの「嵐山渓谷」までの遊歩道の整備

### 工程表

	H25	H26	H27
自然を活かした遊歩道整備	●	—————	●

# 市町村が取組む事業等の概要(嵐山町)

武蔵嵐山駅周辺部では、観光客が安全に通行できる歩道整備を行ってきました。「武蔵嵐山」周辺は、トラスト保全3号地や国蝶オオムラサキを保全するオオムラサキの森活動センターがあります。国史跡の菅谷館跡や木曾義仲の産湯の伝承が残る鎌形八幡神社など歴史豊かな場所もあります。嵐山町の北部には、国史跡で戦国期城郭の最高傑作の一つといわれる杉山城やブルーベリー観光農園もあります。嵐山町の豊かな地域資源を活用するまちづくりを進め、観光客が何度も訪れる魅力あるまちづくりを進めています。

## 位置図



杉山城跡



浄化槽イメージ画デザインを町内の小学生児童に募集し、139作品の中から選定されました。



観光看板イメージ

## 事業等の概要

### ハード

- 観光客が周遊できるよう、観光ルート看板設置(平成24年度)や嵐山渓谷周辺の環境整備を行います。
- 河川の浄化を早期に行うため、PFI方式による市町村管理型合併浄化槽事業を行います。(平成24年度から)
- 国史跡杉山城跡の公有地化を図り、貴重な歴史資産を公開していきます。

### ソフト

- 町の魅力を発信するため、「武蔵嵐山紅葉まつり」(仮称)等イベントを開催します。

### 工程表

	H24	H25	H26	H27
観光看板整備、武蔵嵐山周辺環境整備	●			●
市町村管理型合併浄化槽整備	●	—————	—————	—————
杉山城跡の公有地化		●	—————	—————

現在槻川では、嵐山渓谷パーベキュー場付近においては、嵐山町観光協会が美化活動を積極的に行っています。また、嵐山町、小川町、東秩父村の3町村で構成する「槻川をきれいにする会」や埼玉緑のトラスト協会嵐山支部も美化活動を行っています。嵐山幼稚園も年1回美化活動を行っているなど、槻川については、既に美化活動が積極的に行われてきました。今後も引き続き、町が責任を持って、観光協会や地元自治会、学校などと連携し、維持管理を行っていきます。

## 維持管理の概要

- 維持管理の対象  
嵐山渓谷パーベキュー場から槻川上流の遊歩道
- 維持管理の実施主体  
嵐山町、観光協会、自治会、学校など
- 想定される役割分担  
観光協会等・・・ごみ拾い、清掃活動の実施  
嵐山町・・・草刈、清掃用具の提供、活動の支援
- 役割分担の検討方法  
整備計画を検討するため、観光協会、自治会、NPO、学校などとワーキングチームを設置し、整備計画とあわせ維持管理について検討してきます。

### 既存の活動

- ・嵐山町観光協会  
活動場所：槻川・都幾川(嵐山渓谷パーベキュー場から下流) 内容：経常的な美化活動
- ・槻川をきれいにする会  
活動場所：槻川(嵐山渓谷パーベキュー場周辺) 内容：年2回美化清掃活動
- ・嵐山幼稚園  
活動場所：槻川(嵐山渓谷パーベキュー場) 内容：年1回のウグイの放流及びごみ拾い

## 持続的・自立的な維持管理に向けた取組

- 既に嵐山町観光協会及び槻川をきれいにする会が嵐山渓谷パーベキュー場付近の維持管理活動を行っています。引き続き美化清掃活動を行っていきます。
- 嵐山幼稚園園児らによる清掃活動、ウグイ放流、ごみ拾いも引き続き実施していきます。  
さらに菅谷小学校のおいても「川の学校」を行い、豊かな自然の維持管理の必要性を学習します。
- 嵐山町民でも「武蔵嵐山」及び「嵐山渓谷」を良く知らない方も多く、遊歩道整備と維持管理活動について積極的に広報活動を行います。

### 維持管理への支援制度

- ・地域コミュニティ補助金  
概要：地域のコミュニティ活動を行う事業費に対し、その一部を補助する。
- ・川の応援団(埼玉県)  
概要：川の再生活動を行う団体に対し、活動資材の提供や貸出し、情報共有や情報発信など支援を行う。

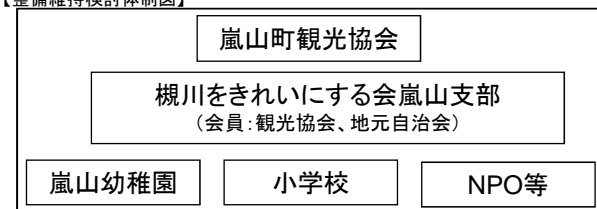
# 再生した川やまちの利活用に向けた取組

これまで、町名由来の地である「武蔵嵐山」や「嵐山渓谷」へは身近に堪能できる散策路がありませんでした。「武蔵嵐山」を再発見するため、既に多くの方が訪れる嵐山渓谷パーベキュー場から訪れることができる自然の景観を壊すことない散策路を、河川管理者や観光協会、地元自治会、NPO、学校等とともに検討します。昭和40年代までは「武蔵嵐山」は一大観光スポットでした。その輝きをもう一度取り戻すべく、豊かな自然と歴史にあふれる嵐山町をまるごと堪能できる総合的な整備を行い、更に観光ボランティアや観光ナビゲーターを育成し、何度でも訪れたいまちを目指します。

## 利活用の計画

- 紅葉シーズンには上田知事も嵐山渓谷に感動し、もっとPRするよう言われました。「武蔵嵐山」にもみじをさらに約300本植え、紅葉シーズンには「武蔵嵐山紅葉まつり」(嵐山渓谷パーベキュー場で開催)を行います。
- 既存の桜まつりのルートを「嵐山渓谷」まで拡大し、その魅力を更にアピールします。
- 案内看板を整備し、武蔵嵐山駅から「嵐山渓谷」の遊歩道、トラスト3号地を周遊するハイキングルートを再設定し、パンフレット等を作成します。
- 北部の観光拠点もアピールし、何度でも嵐山町に訪れたい魅力づくりを進めます。
- 計画づくりは嵐山町と観光協会が中心となり検討します。

【整備維持検討体制図】



## 利活用の実施

- 「武蔵嵐山」と「嵐山渓谷」を再発見する取り組みを町と観光協会が一体となって推進します。
- 子どもたちを対象に、駐車場のある嵐山渓谷パーベキュー場からトラスト地へつながる「水辺の遊歩道」として自然の体験学習(課外授業等)の場として利用します。
- 「武蔵嵐山」周辺と嵐山の北部地区の杉山城跡等といった歴史と自然を更なるアピールした観光マップを作成し、リーピーターを増加させます。
- 観光ボランティアや観光ナビゲーターを育成します。

### 既存のイベント

- ・桜まつり  
(主催者：中心市街地活性化委員会(事務局：商工会)、内容：桜のシーズンに屋台等を出展、会場：都幾川河川敷)
- ・蛍の観察会  
(主催者：NPO法人自然の会オオムラサキ、内容：オオムラサキの森活動センターにて蛍の観察会を行う、会場：オオムラサキの森活動センター)



武蔵嵐山～冠水橋から～

「武蔵嵐山」は、嵐山町名発祥の地であり、古くから景勝地として知られていました。昭和40年代までは、埼玉県を代表する著名な観光スポットでした。現在ではさいたま緑のトラスト保全3号地や嵐山渓谷バーベキュー場が整備され、都心からも多くの観光客が訪れています。

しかし、嵐山渓谷バーベキュー場から「武蔵嵐山」や「嵐山渓谷」へ行くことは容易ではありません。



都幾川堤桜から大平山を望む

嵐山渓谷バーベキュー場から、遊歩道により嵐山町のルーツである「武蔵嵐山」、「嵐山渓谷」へ訪れて頂き、「武蔵嵐山」を再発見し、この豊かな自然を満喫してもらいたいと考えています。

周辺には、トラスト保全3号地、オオムラサキの森活動センター、菅谷館跡、鎌形八幡神社など自然と歴史が溢れています。嵐山町北部には、山城の傑作杉山城跡があります。全てをつなげ、嵐山町へ何度でも訪れてもらえるようなまちづくりを進めています！



## テーマ ～「伝統」・「自然」・「川」を生かしたまちづくり～

### 槻川

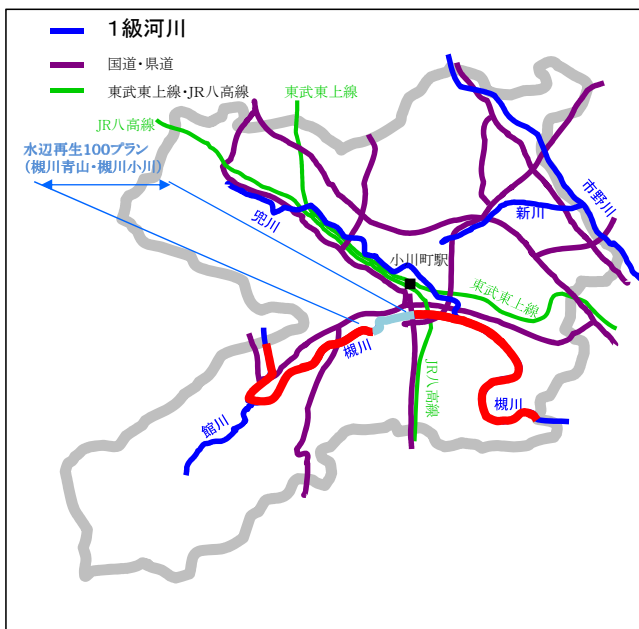
### 小川町

## 川とまちの現状把握

様式-3

小川町は周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれ、市街地の中央に槻川が流れています。伝統産業の小川和紙の産地は槻川上流の腰越地区から下流部の小川地区まで広がっており、槻川の清流が小川町の産業を豊かに育ててくれました。槻川を賑わいのある空間にすることは、新たな人の流れを作ることになり、小川町の活性化が大きく期待されます。

### 市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)



### 川の現状

- 槻川は延長11.1km  
(うち改修済み延長0.8km)
- 美化活動団体11団体  
(うち川の応援団の登録全11団体)
- 小川町民は、毎年5月の河川清掃では6000人位参加するほど河川整備に理解・関心があり、とても協力的です。

### まちづくり等の課題

- 水辺再生100プランを有効に活用するため、槻川の上流とも遊歩道を整備し、和紙や酒造などの観光資源をつなぐルートをつくりだしたい。
- 観光としての山・史跡等をめぐるハイキングコースはあるが、町中心部での遊歩道的なものは整備が遅れており、町中心部への人の流れをつくりだしたい。

小川和紙や酒造などの伝統産業で栄えた「武蔵の小京都」小川町の街並みと、水辺や山里の自然を見直し、河川空間と既存町道を利用した遊歩道により、点在する観光資源をつなぐ新たな人の流れをつくることを図ります。小川町駅周辺と道の駅「おがわまち」を結ぶ清流脇の遊歩道により、「伝統」・「自然」と「川」を生かしたまちづくりを推進します。

まちづくりと川の関係(イメージ図)



- ① 道の駅(埼玉伝統工芸会館)
- ② 槻川親水公園
- ③ カタクリとオオムラサキの林
- ④ カタクリとニリンソウの里
- ⑤ 見晴らしの丘公園
- ⑥ パトリアおがわ

現状と課題への対応

- 埼玉伝統工芸会館と周辺の観光資源を遊歩道によりネットワーク化し、観光資源をつなぐルートを整備したい。
- 和紙や酒造など、点在する観光資源は主に槻川沿いにあるため、町中心部から槻川を利用した人の流れをつくりだし、新たな町活性化の核としたい。
- 「武蔵の小京都」の風情と調和した水辺空間を創出し、水辺に賑わいをもたらしたい。

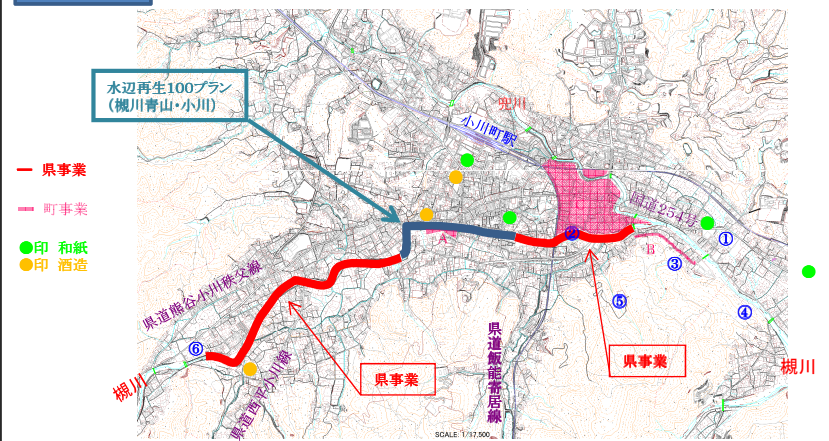
目標・テーマ

- 観光資源のネットワーク化
  - ・ 槻川の遊歩道と町道を整備し、人が観光資源間を安全に自然を楽しみながら移動できるようにします。
- 清流に親しみ、皆で維持する
  - ・ 河川に親しみを持っていただけるような空間を創造し、伝統や自然を次世代につなぐ意識をもっていただく。

県に実施してほしい取組

水辺再生事業区間の下流には埼玉伝統工芸会館やカタクリ・ニリンソウの群生地や見晴らしの丘公園などの観光資源が多く存在しています。上流域には伝統を身近に感じられる酒造会社もあります。そこで、水辺再生事業区間で整備した遊歩道を上下流域に延長整備してつなげることにより、「清流」と「伝統の素晴らしさ」を歩きながら感じてもらう、安全な人の流れが創出されます。

位置図



整備イメージ



整備イメージ



実施してほしい取組の概要

- ハード
- ・ 観光や賑わいの場としての遊歩道の整備
  - ・ 清流を親しむための親水護岸の整備

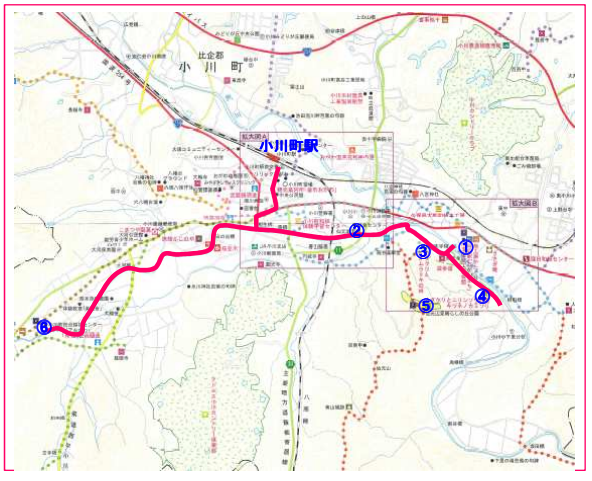
工程表

	H25	H26	H27
護岸整備	●————●	●————●	●————●
遊歩道整備	●————●	●————●	●————●

水辺再生事業により整備された区間を観光資源として有効活用するため、上流端はパトリアおがわ裏の親水公園から下流の観光資源が集中している埼玉伝統工芸会館下流まで、既存町道も利用した遊歩道を設定し、整備を進めます。

## 位置図

遊歩道設定案



現在のロードマップ&タウンガイド



## 事業等の概要

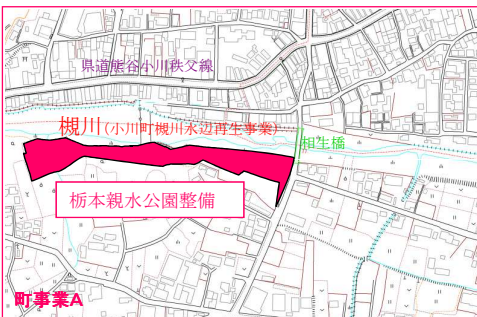
- ハード** ・遊歩道の案内看板整備
- ソフト** ・遊歩道の設定
- ・遊歩道マップの作成

## 工程表

	H25	H26	H27
案内看板整備	●————●		
マップの作成		●————●	

小川町では、「社会資本整備総合交付金」を活用し、平成24年度に公園の整備や公衆トイレの新設等、水辺まわりの環境整備も進めています。

## 位置図

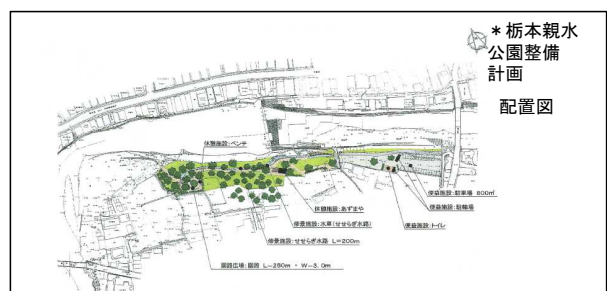
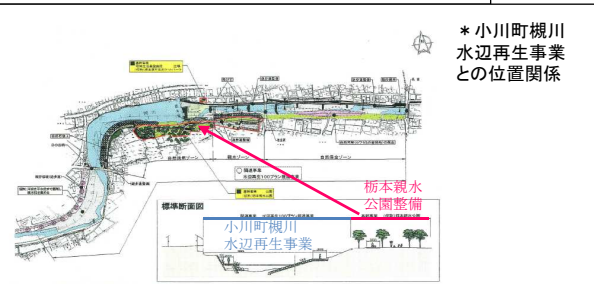


## 事業等の概要

- ハード** ・水辺が、憩いの場や学習の場となるような公園を整備しています。
- ・観光トイレを設置し、周辺環境に配慮します。

## 工程表

	H25	H26	H27
栃本親水公園整備	—————		



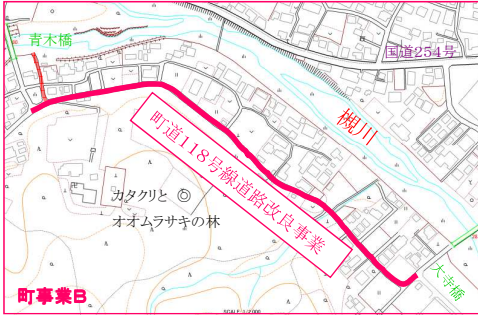


# 小川町が取り組む事業等の概要(小川地区)

様式-6

小川町では、「社会資本整備総合交付金」を活用し、平成23年度から平成26年度までの4年間で町道118号線の道路改良事業を行い、訪れていただいたかたが観光資源間を安全に移動できるようなまちづくりをします。

## 位置図



現況写真



現況写真

## 事業等の概要

ハード

- ・地元住民や観光客が安全に移動できるようにするため、町道を改良して、歩行区域の区分をできるように整備を進めています。

## 工程表

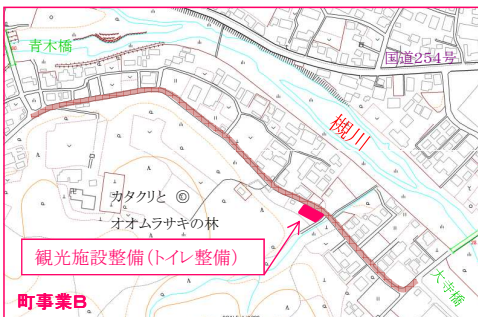
	H25	H26	H27
町道118号線道路改良事業	●—————●		

# 小川町が取り組む事業等の概要(小川地区)

様式-6

小川町では、「社会資本整備総合交付金」を活用し、町道118号線の道路改良事業の近隣に公衆トイレの新設整備を行い、観光客の安心や周辺環境に配慮したまちづくりをします。

## 位置図



予定地現況写真



整備例(平成22年度設置箇所)

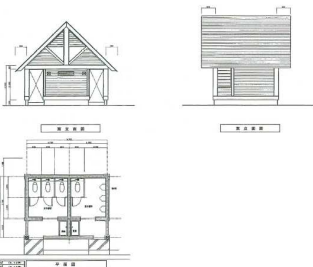
## 事業等の概要

ハード

- ・観光トイレを新設して、周辺環境に配慮した整備をします。

## 工程表

	H25	H26	H27
トイレ整備事業	●—————●		

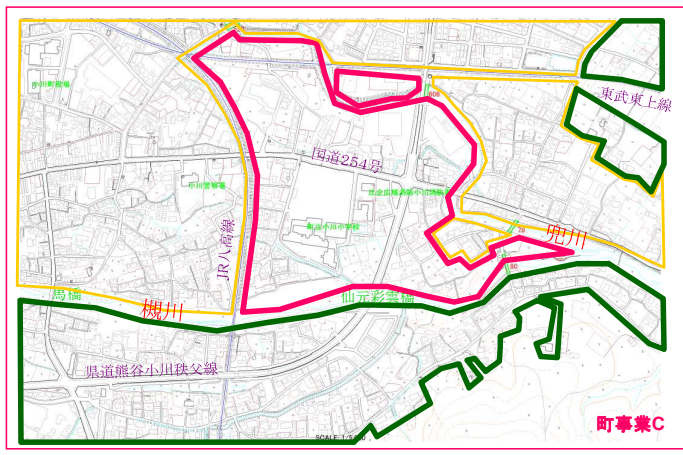


\*設置箇所は予定です

小川町では、平成27年度までの公共下水道の認可区域を計画的に整備し、平成28年度以降も計画的に事業を進めます。なお、公共下水道等区域外については、補助金を交付することにより合併浄化槽への切替えを促進し、良好な水質等の環境保全につとめます。

## 位置図

整備済
  H24~H27 整備予定
  H28以降 整備予定



## 事業等の概要

### ハード

・公共下水道を計画的に整備して、河川の水質向上をめざします。

### ソフト

・公共下水道等区域外の地区は合併浄化槽への切替えに対して補助金を交付して普及の促進を図ります。

## 工程表

	H25	H26	H27
公共下水道事業	5.73ha	8.23ha	5.89ha

# 維持管理の実施

川やまちの維持管理は、水辺環境の保全や水質浄化という目的から、地域と連携して主体的に実施します。

維持管理の内容や役割などは、地域の各行政区とともに検討します。

また、持続的・自立的な維持管理を定着させるため、昭和60年度から始まり、今年28回目を迎えた全町挙げての河川清掃をこれからも実施していきます。

## 維持管理の概要

- 維持管理の対象 河川の護岸・遊歩道
- 維持管理の実施主体 小川町及び行政区
- 維持管理の内容 河川清掃及び除草
- 想定される役割分担
  - 地域住民等・・・河川清掃及び除草の実施
  - 小川町・・・河川清掃の啓蒙、ごみ処分等の支援
- 役割分担の検討方法
  - 既存団体の活動を考慮し、各行政区と協議

### 既存の活動

- ・小川町:河川清掃 毎年5月 約6000人参加
  - 活動場所:町内全域
  - 内容:町内の河川・水路の除草及び清掃
- ・川の国応援団 11団体
  - 活動場所:槻川
  - 内容:河川清掃

## 持続的・自立的な維持管理に向けた取組

- 維持管理を安定させるため、各行政区に衛生委員を選出していただき、不法投棄等に対する地域の監視体制を確立しています。
- 全町挙げての河川清掃など、地域住民の手で河川環境の維持活動を継続させる事業を継続します。
- 河川清掃時に子供たちの手で行う「ウグイの放流」などを通して、子供の頃から河川や河川の生息する生き物に興味をもってもらえる事業を継続します。

町の既存事業を見直し、再生した川を利用した事業をつくりだします。  
 再生した川を利活用し、町を活性化する方法を地域住民や商工会や観光協会とともに検討します。  
 また、散歩道等身近な利用により、清流が日常生活の一部となるような、「武蔵の小京都」にふさわしいまちづくりをします。

## 利活用の計画

- 河川を理解し、親しみ、そして学習する場所として活用します。
- 駅から町の南側にある観光資源と、観光資源間をつなぐ遊歩道のルートを設定します。
- 案内看板やマップを整備して、栃本親水公園付近から小川町駅までの人の流れをつくりだします。
- 新たな人の流れによる小川町駅前の活性化を目指します。

## 利活用の実施

- 参加者を募集し、町で年2回開催している「河川観察会」の会場として積極的に利用します。
- パトリアおがわで行われている「児童館エコクラブ」の活動の場として利用します。
- 七夕まつり実行委員会と協議して、花火鑑賞スポットとして活用する方法を検討します。
- 「ふるさと歩道・小川散歩道コース」を見直し、槻川の清流を利用した新しい魅力ある散歩道を計画します。

### 既存のイベント

- ・小川町七夕まつり  
 主催者：小川町七夕まつり実行委員会（小川町、小川町商工会、小川町観光協会）  
 内容：竹飾りその他各種イベント（市街地）  
 花火大会（煙火本部；埼玉伝統工芸会館）

# 取組全体のアピールポイント

## 武蔵の小京都の伝統を支えた場所から、和みの場所へ



今年28回目を迎えた5月の河川清掃では、6000人位ボランティアで参加するほど河川環境維持に理解があり、とても協力的です。



河川清掃時には子供たちの手で「ウグイの放流」を行っています。

槻川は、小川和紙・酒造などの小川町の伝統産業を支えてくれました。  
 これからは、人が集まる和みの場所へ..

散逸している観光資源を東西に走る槻川の遊歩道で結びつけ、基幹となる人の動線をつくります。

七夕まつりは約20万人の人出で賑わいます。

